

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	愛知学泉短期大学
設置者名	学校法人安城学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
	食物栄養学科	夜・通信			15	15	7	
	幼児教育学科	夜・通信		0	13	13	7	
	生活デザイン総合学科	夜・通信			18	18	7	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

食物栄養学科 https://www.gakusen.ac.jp/t/jyukensei/syllabus/shoku/2024/shoku_hajime.pdf
幼児教育学科 https://www.gakusen.ac.jp/t/jyukensei/syllabus/yo/2024/yo_hajime.pdf
生活デザイン総合学科 https://www.gakusen.ac.jp/t/jyukensei/syllabus/sogo/2024/sogo_hajime.pdf

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由) 該当なし

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	愛知学泉短期大学
設置者名	学校法人安城学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://www.anjogakuen.jp/public-information/officer/

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	商工会議所会頭	2022.05.29 ～ 2025.05.28	企業経営者として、長年にわたり組織及び社員の管理運営の実績をもとに学校経営に向けた指導と助言をいただいている。
非常勤	税理士法人代表役員	2022.04.01 ～ 2025.03.31	税理士法人の代表社員として、長年にわたる様々な企業に対する経営支援の実績をもとに本学園の財政健全化及び経営改善に向けた指導と助言をいただいている。
非常勤	高等学校学校長	2023.04.01 ～ 2026.03.31	学識経験者として、長年にわたり学校教育の現場の管理運営の実績をもとに学校経営に向けた指導と助言をいただいている。
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	愛知学泉短期大学
設置者名	学校法人安城学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) シラバス作成要領に基づき、各教科担当が授業の方法内容、到達目標、成績評価の方法・基準、予習・復習の具体的内容、授業期間の授業の進め方、実務経験のある教員による授業科目等を記載した授業計画(シラバス)を作成する。その後、第三者点検を実施するなど教務委員会で内容をチェック・修正し、3月下旬に完成する。4月のオリエンテーションで学生に配布している。また、ホームページにも掲載公表している。シラバスは科目ごとに検索可能で利便性の向上に取り組んでいる。</p>	
<p>授業計画書の公表方法</p>	<p>食物栄養学科 https://www.gakusen.ac.jp/t/jyukensei/syllabus/shoku_syllabus2024.html 幼児教育学科 https://www.gakusen.ac.jp/t/jyukensei/syllabus/yo_syllabus2024.html 生活デザイン総合学科 https://www.gakusen.ac.jp/t/jyukensei/syllabus/sogo_syllabus2024.html</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 事前に学修する内容をシラバスに明記し、予習を促し学修意欲を高めている。学修の成果及び評価については、全教員が学位授与の方針(ディプロマポリシー)に対応した成績評価方法と評価基準を具体的にシラバスに明示し、成績評価をする際には、筆記試験・レポート・作品・小テスト・学修態度等についてルーブリックを活用し、厳格かつ適正に評価をしている。</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)
 学修の状況及び成果を示す GPA の算出方法については、学生便覧（キャンパスライフ）及びホームページにて公表している。GPA に基づく成績分布状況の把握と指導は下記のように行っている。

GPA が 1.3 未満の学生に対しては、学生自身の履修計画の振り返りと見直し、指導教員等の面談による学修指導に活用する。また、奨学金候補者、交換留学候補者、編入学推薦者の選考等に利用している。退学勧告に利用することもある。

算出方法：履修登録した科目の成績評価（秀・優・良・可・不可）を 4～0 までの点数（GP：Grade Point）に置き換え、それぞれの単位数を乗じ、その合計を履修登録単位数の合計で除して算出します。

(GP 基準)

成績評価	秀 (S) 90 点以上	優 (A) 89～80 点	良 (B) 79～70 点	可 (C) 69～60 点	不可 59 点以下
GP	4	3	2	1	0

(GPA を算出する計算式)

(当該学期に評価を受けた各授業科目の GP×当該授業科目の単位数) の合計
 学期 GPA = -----
 当該学期に評価を受けた授業科目の単位数の合計 (不可・放棄の単位数を含む)

客観的な指標の 算出方法の公表方法	3 学科共通 https://www.gakusen.ac.jp/t/jyukensei/syllabus/shoku/2024/tebiki2024.pdf
----------------------	---

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

各学科の教育目的・目標は、本学の教育目標と教育方針の下に、スキル・リテラシー・教養等に関する一般知識・技能と各学科の専門知識①食物栄養学科では、食と健康に関する専門職に必要な専門知識・技能、②幼児教育学科では、幼児教育及び保育に関する専門職に必要な専門的知識・技能、③生活デザイン総合学科では、変化する社会の中で自己の価値観を確立しながら職業の選択だけでなくライフスタイルを自らデザインできる能力に必要な専門知識・技能、社会人として職場と地域の課題に貢献できる人材となることが、卒業認定の基になる。

○具体的な卒業の認定を下記において認めている。

食物栄養学科：基礎科目群より 12 単位以上、専門科目群より 52 単位以上、総計 64 単位以上

幼児教育学科：教養科目群より 12 単位以上、専門科目群より 46 単位以上、総計 62 単位以上

生活デザイン総合学科：ベーシックフィールドの科目群より 14 単位以上、その他 4 ユニット 24 単位以上を含め、総計 64 単位以上

卒業の認定に関する 方針の公表方法	3 学科共通 https://www.gakusen.ac.jp/t/ippan/c/2-7.pdf
----------------------	---

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	愛知学泉短期大学
設置者名	学校法人安城学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.anjogakuen.jp/wp/wp-content/uploads/2024/06/bs_2023.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.anjogakuen.jp/wp/wp-content/uploads/2024/06/fs_2023.pdf
財産目録	https://www.anjogakuen.jp/wp/wp-content/uploads/2024/06/gi_2023.pdf
事業報告書	https://www.anjogakuen.jp/wp/wp-content/uploads/2024/06/br_2023.pdf
監事による監査報告(書)	https://www.anjogakuen.jp/wp/wp-content/uploads/2024/06/ar_2023.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.gakusen.ac.jp/t/ippan/jikotenken.html

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.gakusen.ac.jp/t/ippan/nintei.html

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 食物栄養学学科
教育研究上の目的 (公表方法 : https://www.gakusen.ac.jp/t/ippan/c/1-1.pdf) (概要) 食物栄養学科 食物栄養学科の教育目標は、本学の教育目標と教育方針の下に、「真心・努力・奉仕・感謝」の四大精神の実践を通して社会的に自立して生きていく上で必要な①スキル・リテラシー・教養等に関する一般的知識・技能と②食と健康に関する専門職に必要な専門的知識・技能と③建学の精神・社会人基礎力・pisa型学力を統合的に身に付け、社会に出てからはこれらの知識・技能をベースに生涯学習社会の中で自己の潜在能力をさらに開発しながら、職場と地域の課題解決に貢献できる人材を育成することである。 学位：短期大学士（食物栄養学）
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法 : https://www.gakusen.ac.jp/t/ippan/c/2-7.pdf) (概要) 食物栄養学科の教育目標は、本学の教育目標と教育方針の下に、「真心・努力・奉仕・感謝」の四大精神の実践を通して、社会的に自立して生きていく上で必要な①スキル・リテラシー・教養等に関する一般的知識・技能、②食と健康に関する専門職に必要な専門的知識・技能、③建学の精神・社会人基礎力・pisa型学力を統合的に身に付け、社会に出てからはこれらの知識・技能をベースに生涯学習社会の中で自己の潜在能力をさらに開発しながら、職場と地域の課題解決に貢献できる人材を育成することです。 正規のカリキュラムの所定の単位を修得した者には卒業を認定し、短期大学士（食物栄養学）の学位を授与します。 学位を授与するにあたって重視する項目は以下のとおりです。 ① 建学の精神、社会人基礎力、pisa型学力を修得していること。 ② 客観的な証拠に基づいて科学的なものごとの判断ができること。 ③ 食生活の改善を通して健康の保持増進および生活習慣病予防等に向けた提案ができ、人々の生活の質（QOL）の向上に貢献できること。 ④ 自立した社会人として、一般的知識と技能と常識に裏付けられた考えを持ち、自己研鑽に取り組み、自らの可能性を活かしつつ組織や社会の中で貢献できること。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 : https://www.gakusen.ac.jp/t/ippan/c/2-6-2.pdf) (概要) (A) カリキュラムの実施について ① 「真心・努力・奉仕・感謝」の四大精神の実践を踏まえて授業を行います。 ② 社会人基礎力の能力要素が獲得できるような授業を行います。 ③ 知識を活用した pisa 型学力を修得するための授業を行います。 (B) カリキュラムの編成について (B-1) カリキュラム編成の基本方針について ① 教育課程は、学則及び栄養士法及び同法施行令・施行規則で定められています。 ② 履修科目は、大きく基礎科目と専門科目で編成されています。

<p>③ 授業形態には、講義、演習、実験・実習の3種類あります。実習には学外実習も含まれます。</p> <p>④ これらの科目を体系的に配置して、高い教養と実践的な専門的知識・技能を修得できるようにカリキュラムを編成しています。</p> <p>(B-2) 教養教育プログラムについて 食物栄養学科においては、生物・化学の基礎的知識・技能が不可欠です。そのための基礎教養を高めるために「科学概論」や「生命科学」の科目を設けています。</p> <p>(B-3) 専門教育プログラムについて 栄養士資格については法規定に基づき必要な科目を、また医療事務に関する科目については各団体が認定基準として定める科目を設けています。</p> <p>(B-4) 初年次教育プログラムについて 入学後、学生が短期大学教育に馴染めるように「特別演習」や「無限の可能性 開発講座Ⅰ・Ⅱ」の科目を設けています。</p> <p>(B-5) キャリア教育プログラムについて 社会的・職業的自立に向け、人生観や勤労観を養うための科目「キャリアデザイン」を設けています。</p> <p>(B-6) リメディアル教育プログラムについて 大学の教育を受けるために必要な日本語文書の書き方、基礎的数学力などの補習教育（リメディアル講座）を実施しています。また、授業後など時間外で個別指導を実施しています。</p> <p>(C) 学修成果について</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 建学の精神と倫理観の修得 ② 文章理解・コミュニケーションスキル・数量的スキル・情報処理スキルなど汎用的能力の修得 ③ 獲得した知識等を活用し、新たな課題に適応して解決する pisa 型学力の修得 ④ 文化・社会・自然に関する知識修得と理解 ⑤ 態度・志向性・自己管理能力・チームワークなど行動特性の獲得 ⑥ 専門的な知識や技術・技能の修得 <p>(D) 資格対応について 取得可能な免許・資格は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 栄養士免許 ・ 医療管理秘書士資格
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.gakusen.ac.jp/t/ippan/c/2-2.pdf)</p>
<p>(概要) 栄養士の仕事は人間が生きていくための基本である「食」を通して、人々の健康を維持・増進し、生活の質（QOL）を高めることができるようにサポートすることです。</p> <p>そこで、次に掲げるような人を積極的に受け入れます。</p> <p>(A) 学力の3要素について</p> <p>(A-1) 基礎的・基本的な知識・技能について</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 「現代国語」の基礎的な学力が備わっている人 ② 「生物」や「化学」などの基礎的な学力、汎用的計算力が備わっている人 ③ 「家庭科」の基礎的な技能が備わっている人 ④ 「情報処理」の基礎的な技能が備わっている人 <p>(A-2) 課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力について</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 新聞記事等を読み、理解して、自分の意見や感想を作文で表すことのできる人 ② グループの中で、他人の意見を踏まえて自分の意見を的確に伝えることのできる人

(A-3) 主体的に学習に取り組む態度について

- ① 学習に対して、自らの意志、考え、信念を持ち、さらに柔軟な思考力や知的な好奇心が旺盛な人
- ② 健康の保持増進および生活習慣病予防等に関する食知識・技能を修得したい人
- ③ 栄養指導および給食の運営に関する調理や献立作成に関する技能を修得したい人
- ④ 食生活に精通し、豊かな発想力によって食育を推進したい人
- ⑤ 医療保険制度やレシピ作成業務などの知識・技能を修得したい人

(B) 行動特性について

- ① 何事に対してもチャレンジし、可能性を追求する姿勢に富んだ人
- ② 自己管理ができる人
- ③ グループワーク・チームワークなどにおいて協調して取り組むことができる人
- ④ 自らの考えを持ちながらも、他者を認め、協力しあえる人

(C) 選択した学科とのマッチングについて

- ① 栄養士の資格を活かして給食運営や食育推進の現場で活躍したい人
- ② 「医療保険制度」「医療保険実務演習」などを学修してコメディカルスタッフとして活躍したい人

(D) 評価（入学者選抜）について

- ① 総合型選抜では、面談（口頭試問を含む）と志望理由書及び調査書によって、上記（A）、（B）、（C）の観点で確認します。
- ② 学校推薦型選抜（指定校制）では面接（口頭試問を含む）と推薦書及び調査書によって、上記（A）、（B）、（C）の観点で確認します。
- ③ 学校推薦型選抜（公募制）では、国語の試験と面接、推薦書及び調査書によって、上記（A）、（B）、（C）の観点で確認します。
- ④ 一般選抜（前期）では、国語及び選択科目（英語・日本史・生物）の各試験と調査書によって、上記（A）の学力の3要素を確認します。また、調査書によって、上記（B）、（C）の観点で確認します。
- ⑤ 大学入学共通テスト利用選抜では、選択した学力試験2科目によって、上記（A）の学力の3要素を確認します。また、調査書によって、上記（B）、（C）の観点で確認します。
- ⑥ 社会人選抜及び外国人留学生選抜では、志望理由書、作文及び面接によって、上記（A）、（B）、（C）の観点で確認します。
- ⑦ 一般選抜（後期）では、国語の試験によって、上記（A）の学力の3要素を確認します。また、調査書によって、上記（B）、（C）の観点で確認します。
- ⑧ 特別選抜（地域貢献人材育成枠、文化・芸術分野枠）では、志望理由書（活動証明・実績証明書含む）、調査書及び面接によって、上記（A）、（B）、（C）の観点で確認します。

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名： 幼児教育学科

教育研究上の目的（公表方法：<https://www.gakusen.ac.jp/t/ippan/c/1-1.pdf>）

<p>(概要)</p> <p>幼児教育学科 幼児教育学科の教育目標は、本学の教育目標と教育方針の下に、「真心・努力・奉仕・感謝」の四大精神の実践を通して社会的に自立して生きていく上で必要な①スキル・リテラシー・教養等に関する一般的知識・技能と②幼児教育及び保育に関する専門職に必要な専門的知識・技能と③建学の精神・社会人基礎力・pisa型学力を統合的に身に付け、社会に出てからはこれらの知識・技能をベースに生涯学習社会の中で自己の潜在能力をさらに開発しながら、職場と地域の課題解決に貢献できる人材を育成することである。</p> <p>学位：短期大学士（幼児教育学）</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.gakusen.ac.jp/t/ippan/c/2-7.pdf)</p>
<p>(概要)</p> <p>幼児教育学科の教育目標は、本学の教育目標と教育方針の下に、「真心・努力・奉仕・感謝」の四大精神の実践を通して、社会的に自立して生きていく上で必要な①スキル・リテラシー・教養等に関する一般的知識・技能、②幼児教育及び保育に関する専門職に必要な専門的知識・技能、③建学の精神・社会人基礎力・pisa型学力を統合的に身に付け、社会に出てからはこれらの知識・技能をベースに生涯学習社会の中で自己の潜在能力をさらに開発しながら、職場と地域の課題解決に貢献できる人材を育成することです。</p> <p>正規のカリキュラムの所定の単位を修得した者には卒業を認定し、短期大学士（幼児教育学）の学位を授与します。</p> <p>学位を授与するにあたって重視する項目は以下のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 建学の精神、社会人基礎力、pisa型学力を修得していること。 ② 幼児教育及び保育について主体的に関わり、こどもたちの成長を心から願い努力できること。 ③ 幼児教育及び保育の現場で活躍できるための専門的知識・技能を修得し、それぞれの現場で協調性を持って柔軟に活用できること。 ④ 自立した社会人として、一般的知識・技能と常識に裏付けられた考えを持ち、自己研鑽に取り組み、自らの可能性を活かしつつ組織や社会の中で貢献できること。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.gakusen.ac.jp/t/ippan/c/2-6-2.pdf)</p>
<p>(概要)</p> <p>(A) カリキュラムの実施について</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 「真心・努力・奉仕・感謝」の四大精神を実践を踏まえて授業を行います。 ② 社会人基礎力の能力要素が獲得できるような授業を行います。 ③ 知識を活用した pisa 型学力を修得するための授業を行います。 <p>(B) カリキュラムの編成について</p> <p>(B-1) カリキュラム編成の基本方針について</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 教育課程は、学則及び児童福祉法及び施行令、教育職員免許法及び施行規則で定められています。 ② 履修科目は、大きく基礎科目と専門科目で編成されています。 ③ 授業形態には、講義、演習、実技・実習の3種類あります。また、幼児教育あるいは保育現場の行事運営を念頭に置き、学修したことを体験的に確認するための取り組みとして「行事」も用意しています。 ④ 各科目は体系的に配置して、高い教養と実践的な専門的知識・技能を修得できるように編成しています。 <p>(B-2) 教養教育プログラムについて</p> <p>社会人として必要な基礎教養を身に付けるための「教養科目」を設けています。</p>

(B-3) 専門教育プログラムについて

幼児教育・保育者としての専門性を高めるため、第一系列から第五系列までの専門科目群とその他の科目で編成される「専門科目」に分かれています。

(B-4) 初年次教育プログラムについて

入学後、学生が短期大学教育に馴染めるように、少人数制による「無限の可能性開発講座Ⅰ・Ⅱ」や就職を重視した「キャリアデザイン」の科目を設けています。

(B-5) キャリア教育プログラムについて

社会的・職業的自立に向け、その基盤となる能力や態度を育成するために「キャリアデザイン」を設けています。

(B-6) リメディアル教育プログラムについて

大学の教育を受けるために必要な日本語文書の書き方、基礎的数学力などの補習教育（リメディアル講座）を実施しています。また、授業後など時間外で個別指導を実施しています。

(C) 学修成果について

- ①建学の精神と倫理観の修得
- ②文章理解・コミュニケーションスキル・数量的スキル・情報処理スキルなど汎用的能力の修得
- ③獲得した知識等を活用し、新たな課題に適応して解決する pisa 型学力の修得
- ④文化・社会・自然に関する知識修得と理解
- ⑤態度・志向性・自己管理能力・チームワークなど行動特性の獲得
- ⑥専門的な知識や技術・技能の修得

(D) 資格対応について

取得可能な免許・資格は以下のとおりです。

- ・幼稚園教諭二種免許
- ・保育士資格
- ・レクリエーション-インストラクター資格
- ・準学校心理士資格
- ・認定絵本土資格

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.gakusen.ac.jp/t/ippan/c/2-2.pdf>)

(概要)

幼児教育・保育についての関心があり、子どもの成長と幸福を願い、将来保育者として社会に貢献したいという志を持った人を望みます。

そこで、次に掲げるような人を積極的に受け入れます。

(A) 学力の3要素について

(A-1) 基礎的・基本的な知識・技能について

- ①「現代国語」の基礎的な学力が備わっている人
- ②「音楽」に親しみ、ピアノ等の楽器や歌で表現できる基礎的な能力が備わっている人
- ③「美術」に親しみ、もの作りにおいて基礎的な表現力が備わっている人
- ④「体育」などの運動に親しみ、基礎的な運動能力が備わっている人
- ⑤「情報処理」の基礎的な技能が備わっている人

(A-2) 課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力について

- ① 新聞記事を読み、理解して、自分の意見や感想を作文で表すことのできる人
- ② グループの中で、他人の意見を踏まえて自分の意見を的確に伝えることのできる人
- ③ 伝えたい事を物や身体を使って表現できる人

(A-3) 主体的に学習に取り組む態度について

<p>① 学習に対して、自らの意志、考え、信念を持ち、さらに柔軟な思考力や知的な好奇心が旺盛な人</p> <p>② 乳幼児の発育発達について専門的に学びたい人</p> <p>③ 他者の気持ちを想像できる人</p> <p>④ 子どもの行動で起こりうる出来事や可能性を想像できる人</p> <p>(B) 行動特性について</p> <p>① 何事に対してもチャレンジし、可能性を追求する姿勢に富んだ人</p> <p>② 自己管理ができる人</p> <p>③ こどもや弱者を尊重し、愛情を持って接することができる人</p> <p>④ 自らの考えを持ちながらも、他者を認め、協力しあえる人</p> <p>(C) 選択した学科とのマッチングについて</p> <p>① 幼稚園教諭の資格を活かして、幼稚園の現場で活躍したい人</p> <p>② 保育士の資格を活かして、保育の現場で活躍したい人</p> <p>(D) 評価（入学者選抜）について</p> <p>① 総合型選抜では、面談（プレゼンテーションを含む）と志望理由書及び調査書によって、上記（A）、（B）、（C）の観点で確認します。</p> <p>② 学校推薦型選抜（指定校制）では面接（口頭試問を含む）と推薦書及び調査書によって、上記（A）、（B）、（C）の観点で確認します。</p> <p>③ 学校推薦型選抜（公募制）では、国語の試験と面接、推薦書及び調査書によって、上記（A）、（B）、（C）の観点で確認します。</p> <p>④ 一般選抜（前期）では、国語及び選択科目（英語・日本史・生物）の各試験と調査書によって、上記（A）の学力の3要素を確認します。また、調査書によって、上記（B）、（C）の観点で確認します。</p> <p>⑤ 大学入学共通テスト利用選抜では、選択した学力試験2科目によって、上記（A）の学力の3要素を確認します。また、調査書によって、上記（B）、（C）の観点で確認します。</p> <p>⑥ 社会人選抜及び外国人留学生選抜では、志望理由書、作文及び面接によって、上記（A）、（B）、（C）の観点で確認します。</p> <p>⑦ 一般選抜（後期）では、国語の試験によって、上記（A）の学力の3要素を確認します。また、調査書によって、上記（B）、（C）の観点で確認します。</p> <p>⑧ 特別選抜（地域貢献人材育成枠、文化・芸術分野枠）では、志望理由書（活動証明・実績証明書含む）、調査書及び面接によって、上記（A）、（B）、（C）の観点で確認します。</p>

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 生活デザイン総合学科
教育研究上の目的（公表方法： https://www.gakusen.ac.jp/t/ippan/c/1-1.pdf ）
<p>(概要)</p> <p>生活デザイン総合学科 生活デザイン総合学科の教育目標は、本学の教育目標と教育方針の下に、「真心・努力・奉仕・感謝」の四大精神の実践を通して社会的に自立して生きていく上で必要な①スキル・リテラシー・教養等に関する一般的知識・技能と②変化する社会の中で自己の価値観を確立しながら職業の選択だけでなくライフスタイルを自らデザインできる能力に必要な専門的知識・技能と③建学の精神・社会人基礎力・pisa型学力を統合的に身に付け、社会に出てからはこれらの知識・技能をベースに生涯学習社会の中で自己の潜在能力をさらに開発しながら職場および地域の課題解決に貢献できる人材を育成することである。</p> <p>学位：短期大学士（地域総合科学）</p>

卒業の認定に関する方針（公表方法：<https://www.gakusen.ac.jp/t/ippan/c/2-7.pdf>）

（概要）

生活デザイン総合学科の教育目標は、本学の教育目標と教育方針の下に、「真心・努力・奉仕・感謝」の四大精神の実践を通して、社会的に自立して生きていく上で必要な①スキル・リテラシー・教養等に関する一般的知識・技能、②変化する社会の中で自己の価値観を確立しながら職業の選択だけでなくライフスタイルを自らデザインできる能力に必要な専門的知識・技能、③建学の精神・社会人基礎力・pisa型学力を統合的に身に付け、社会に出てからはこれらの知識・技能をベースに生涯学習社会の中で自己の潜在能力をさらに開発しながら、職場と地域の課題解決に貢献できる人材を育成することです。

正規のカリキュラムの所定の単位を修得した者には卒業を認定し、短期大学士（地域総合科学）の学位を授与します。

学位を授与するにあたって重視する項目は以下のとおりです。

- ① 建学の精神、社会人基礎力、pisa型学力を修得していること。
- ② 目標とする専門分野の専門的知識・技能を修得し、これらを活用することができること。
- ③ 広い視野と柔軟な思考を身につけ、独自の発想や表現ができること。
- ④ 自立した社会人として、一般的知識・技能と常識に裏付けられた考えを持ち、自己研鑽に取り組み、自らの可能性を活かしつつ組織や社会の中で貢献できること。

教育課程の編成及び実施に関する方針

（公表方法：<https://www.gakusen.ac.jp/t/ippan/c/2-6-2.pdf>）

（概要）

（A）カリキュラムの実施について

- ① 「真心・努力・奉仕・感謝」の四大精神を実践を踏まえて授業を行います。
- ② 社会人基礎力の能力要素が獲得できるような授業を行います。
- ③ 知識を活用したpisa型学力を修得するための授業を行います。

（B）カリキュラムの編成について

（B-1）カリキュラム編成の基本方針について

- ① 教育課程は、基礎教養教育と専門教育によって編成されています。
- ② 生活デザイン総合学科は、多様な分野の科目履修によって得られる幅広い教養を基に、学生の進路設計・進路実現に必要な専門的知識・技能が身に付けられる教育システムになっています。
- ③ カリキュラムは、多彩な科目群の中から目的や興味に合わせて自由に科目が選択できる「カフェテリア履修」方式ですので、自分の夢の実現に向けて自らカリキュラムを作ることができます。
- ④ 多様な学習分野の中から自分の学修プログラムを選び学ぶことで、将来の進路や自分の関心にそった学修ができ、学修意欲や探求心が強まります。
- ⑤ 幅広い学修分野について、多面的な視野に立った学修が展開できます。

（B-2）教養教育プログラムについて

ベーシックフィールドに共通ユニットと教養ユニットを置き、社会人として必要な基礎教養を身に付けることができるように健康・スポーツ、心理、社会、生涯学習、日本語、コンピュータ、日本文化等に関わる「教養科目」を設けています。

（B-3）専門教育プログラムについて

専門性を身につける人材を育成するために「情報・オフィス」「フード・インテリア」「図書館」「国際交流」「ファッション・アート」「スポーツ・医療・福祉」の6フィールドに分かれています。

（B-4）初年次教育プログラムについて

入学後、学生が短期大学教育に馴染めるように「無限の可能性開発講座Ⅰ・Ⅱ」や「学びとライフプランニングⅠ」を設けています。

(B-5) キャリア教育プログラムについて

社会人としての自覚を深め、社会への適応能力や職業に対する意識を高めるために「キャリアデザインⅠ・Ⅱ」を設けています。さらに発展していけるように「キャリアデザインⅢ・Ⅳ」、「インターンシップ」を2年間に亘って設け職業に対する意識を高めています。

(B-6) リメディアル教育プログラムについて

大学の教育を受けるために必要な日本語文書の書き方、基礎的数学力などの補習教育(リメディアル講座)を実施しています。また、授業後など時間外で個別指導を実施しています。

(C) 学修成果について

- ① 建学の精神と倫理観の修得
- ② 文章理解・コミュニケーションスキル・数量的スキル・情報処理スキルなど汎用的能力の修得
- ③ 獲得した知識等を採用し、新たな課題に適応して解決する pisa 型学力の修得
- ④ 文化・社会・自然に関する知識修得と理解
- ⑤ 態度・志向性・自己管理能力・チームワークなど行動特性の獲得
- ⑥ 専門的な知識や技術・技能の修得

(D) 資格対応について

- ① 取得可能な資格は以下の7種類です。
上級秘書士(メディカル秘書)資格、ビジネス実務士資格、情報処理士資格、ウェブデザイン実務士資格、図書館司書資格、レクリエーション-インストラクター資格、介護職員初任者研修資格
- ② 受験により取得可能な資格は以下の4種類です。
フードスペシャリスト資格、スポーツ-インストラクター資格、ピアヘルパー資格、健康管理士一般指導員
- ③ 検定は以下の21種類です。
パソコンスピード認定試験、Web デザイナー検定、色彩検定®、ネイリスト技能検定、CG クリエイター検定、TOEIC®、秘書検定、ビジネス文書検定、文書デザイン検定、日本漢字能力検定、ブライダルプランナー検定、ホスピタルコンシェルジュ®検定、商業ラッピング検定、ファッション販売能力検定、メイクセラピー検定、アロマセラピー検定、日本語ワープロ検定、プレゼンテーション作成検定、フォーマルスペシャリスト検定、リビングスタイリスト®検定、色彩技能パーソナルカラー検定®

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.gakusen.ac.jp/t/ippan/c/2-6-2.pdf>)

(概要)

生活デザイン総合学科では、多様な分野の科目履修によって得られる幅広い教養を基に、自己の進路設計・進路実現に必要な基礎・専門的知識・技能を学修できます。そこで、次に掲げるような人を積極的に受け入れます。

(A) 学力の3要素について

(A-1) 基礎的・基本的な知識・技能について

- ① 「現代国語」の基礎的な学力が備わっている人
さらに、下記②～⑤の何れかに該当する人
- ② 「社会」の基礎的な知識が備わっている人
- ③ 「英語」の基礎的な学力が備わっている人
- ④ 「家庭科」の基礎的な技能が備わっている人

- ⑤「情報処理」の基礎的な技能が備わっている人
- (A-2) 課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力について
- ① 新聞記事などを読み、理解し、自分の感想や意見を作文で表すことのできる人
 - ② グループの中で、他人の意見を踏まえて自分の意見を的確に伝えることのできる人
- (A-3) 主体的に学習に取り組む態度について
- ① 学習に対して、自らの意志、考え、信念を持ち、さらに柔軟な思考力や知的好奇心が旺盛な人
 - ② 自己の進路をデザインするため、興味や関心のある学修分野を学びたい人
 - ③ 自己の進路をデザインするため、興味や関心のある資格取得や検定試験に挑戦したい人
 - ④ カナダ、韓国、台湾などの文化や人々との交流に興味のある人
- (B) 行動特性について
- ① 自己管理ができる人
 - ② 目標達成のため、旺盛なチャレンジ精神を発揮して努力を惜しまない人
 - ③ 自分の可能性や将来の夢に向かって計画的に物事に取り組める人
 - ④ 社会性を持ち、責任を持って行動できる人
 - ⑤ 自らの考えを持ちながらも、他者を認め、協力しあえる人
- (C) 選択した学科とのマッチングについて
- ① 一般事務、販売士、介護士、医療事務、営業職、図書館司書などに就いて活躍したい人。
- (D) 評価（入学者選抜）について
- ① 総合型選抜では、面談（口頭試問を含む）と志望理由書及び調査書によって、上記（A）、（B）、（C）の観点で確認します。
 - ② 学校推薦型選抜（指定校制）では面接（口頭試問を含む）と推薦書及び調査書によって、上記（A）、（B）、（C）の観点で確認します。
 - ③ 学校推薦型選抜（公募制）では、国語の試験と面接、推薦書及び調査書によって、上記（A）、（B）、（C）の観点で確認します。
 - ④ 一般選抜（前期）では、国語及び選択科目（英語・日本史・生物）の各試験と調査書によって、上記（A）の学力の3要素を確認します。また、調査書によって、上記（B）、（C）の観点で確認します。
 - ⑤ 大学入学共通テスト利用選抜では、選択した学力試験2科目によって、上記（A）の学力の3要素を確認します。また、調査書によって、上記（B）、（C）の観点で確認します。
 - ⑥ 社会人選抜及び外国人留学生選抜では、志望理由書、作文及び面接によって、上記（A）、（B）、（C）の観点で確認します。
 - ⑦ 一般選抜（後期）では、国語の試験によって、上記（A）の学力の3要素を確認します。また、調査書によって、上記（B）、（C）の観点で確認します。
 - ⑧ 特別選抜（地域貢献人材育成枠、文化・芸術分野枠）では、志望理由書（活動証明・実績証明書含む）、調査書及び面接によって、上記（A）、（B）、（C）の観点で確認します。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.gakusen.ac.jp/t/ippan/info2-1.html>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	2人	—					人
食物栄養学科	—	3人	0人	5人	0人	3人	11人
幼児教育学科	—	3人	4人	3人	0人	2人	12人
生活デザイン総合学科	—	4人	1人	4人	1人	4人	14人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
2人		26人					28人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://www.gakusen.ac.jp/t/ippan/info2-1.html					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
<p>教学マネジメントの要の会議体として内部質保証の推進を主に、FD委員会規程に基づき、原則、毎月1回、定例でFD委員会を開催している。様々な教学上の取り組み事項について、IR機能を活用して検証し、査定を行って課題を確認し、必要な改善策について検討協議している。また、本委員会は、毎年度、教員及び職員に対する教学並びに管理運営に関する研修会を開催し、教授法その他、教育実施全般の改善と活性化に役立てている。</p>							

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
食物栄養学科	80人 (100%)	1人 (1%)	76人 (96%)	3人 (3%)
幼児教育学科	59人 (100%)	0人 (0%)	55人 (93.2%)	4人 (6.8%)
生活デザイン総合学科	150人 (100%)	13人 (8.6%)	129人 (86%)	8人 (5.4%)
合計	289人 (100%)	14人 (4.8%)	260人 (90%)	15人 (5.2%)
（主な進学先・就職先）（任意記載事項） https://www.gakusen.ac.jp/t/jyukensei/syusyoku/omo.html				
（備考）				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)

(備考)

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
食物栄養学科	70人	41人	58.6%	140人	88人	62.9%	0人	0人
幼児教育学科	120人	52人	43.3%	240人	123人	51.3%	0人	0人
生活デザイン 総合学科	130人	122人	93.8%	260人	278人	106.9%	0人	0人
合計	320人	215人	67.2%	640人	489人	76.4%	0人	0人

(備考)

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)

授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法・基準、予習・復習の具体的内容、授業期間の授業の進め方、実務経験のある教員による授業科目等を記載した授業計画（シラバス）を作成している。授業計画（シラバス）及び年間の授業計画は、ホームページに掲載している。また、授業計画（シラバス）は科目ごとに検索可能としている。

【シラバス】

食物栄養学科
https://www.gakusen.ac.jp/t/jyukensei/syllabus/shoku_syllabus2021.html

幼児教育学科
https://www.gakusen.ac.jp/t/jyukensei/syllabus/yo_syllabus2021.html

生活デザイン総合学科
https://www.gakusen.ac.jp/t/jyukensei/syllabus/sogo_syllabus2021.html

【年間の授業計画】

https://www.gakusen.ac.jp/t/ippan/c/2-5-1_21.pdf

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

各学科の教育目的・目標は、本学の教育目標と教育方針の下に、スキル・リテラシー・教養等に関する一般知識・技能と各学科の専門知識①食物栄養学科では、食と健康に関する専門職に必要な専門知識・技能、②幼児教育学科では、幼児教育及び保育に関する専門職に必要な専門的知識・技能、③生活デザイン総合学科では、変化する社会の中で自己の価値観を確立しながら職業の選択だけでなくライフスタイルを自らデザインできる能力に必要な専門知識・技能を身に付け、社会人として職場と地域の課題に貢献できる人材となること、卒業認定の基になる。

学修の成果としては、全教員が学位授与の方針（ディプロマポリシー）に対応した成績評価方法と評価基準を具体的にシラバスに明示し、周知している。成績評価をする際には、筆記試験・レポート・作品・小テスト・学修態度等についてルーブリックを活用し厳格かつ適正に評価している。卒業は、各学科の卒業要件単位数の取得を確認し認めている。

学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	食物栄養 学科	64 単位	有	50 単位
	幼児教育 学科	62 単位	有	50 単位
	生活デザ イン総合 学科	64 単位	有	50 単位
GPAの活用状況(任 意記載事項)	3 学科共通 公表方法： https://www.gakusen.ac.jp/t/jyukensei/syllabus/shoku/2021/tebiki2021.pdf			
学生の学修状況に係 る参考情報(任意記載 事項)	公表方法：			

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法： キャンパスマップ https://www.gakusen.ac.jp/t/ippan/c/1-3_n.pdf 課外活動状況 https://www.gakusen.ac.jp/t/jyukensei/campus/club.html 福利厚生施設 https://www.gakusen.ac.jp/t/zaigakusei/gakuseika.html

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
	食物栄養学 科	720,000 円	260,000 円	458,930 円	
	幼児教育学 科	720,000 円	260,000 円	461,930 円	
	生活デザ イン総合学科	720,000 円	260,000 円	433,930 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組 (概要) 学習成果の獲得に向けて学修支援を指導教授制のもと、きめ細かな指導を行う体制を整えている。また、事務組織や教務委員会組織において組織的に修学にかかる支援を行っている。各学科ではオリエンテーションを実施し、学習の動機付けに焦点を合わせた学習方法の解説や科目選択のためのガイダンスを実施している。学科独自のポートフォリオを用いて、学生一人ひとりの目標達成の状況を把握するために指導教授が科目の履修指導や学習支援、卒業に至る指導を行っている。学修支援の必要な学生に対しては、リメディアル教育を実施し、基礎学力の向上に努めている。事務職員は、教員との情報交換を日常的に行い、学修成果の獲得に向け、カリキュラムに関すること、授業に関すること、単位取得に関すること等支援している。特に助手・研究補助員は実習や演習補助に入り、学習面でのサポートを行って、学修支援に努めている。授業教材や視聴覚機器等については、学習成果の獲得に向け、教務委員会・教務課・SE と連携を図り、授業内での効率的な運用と配置に努め支援を行っている。尚、2019 年度からの新型コロナウイルス感染症拡大に対応して、ICT を活用した遠隔型授業を開始し、その充実に一層取り組んでいる。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

就職課職員及び就職委員会が連携し、学生への求人情報の提供、就職相談、履歴書指導、面接指導等を実施している。また、専門的な知識を持ったキャリアカウンセラーを配置し、就職活動で抱えた悩みや不安を解消することができるような支援も行っている。

就職課には就職活動に必要な資料や書籍、企業情報、過去の受験報告書が閲覧でき、設置してあるパソコンから情報検索、進路研究ができるようにしている。

また、ジェネリックスキルテストを実施し、自分の強み・弱みを分析し、履歴書やエントリーシートの記載内容等に活かすとともに、公務員試験対策講座、一般教養講座等も開講している。さらに、学内合同説明会や学内個別説明会・一次選考会、保育職セミナー等も開催し、就職を希望する学生の能力・適性を活かし、様々な分野で活躍できる支援体制をとっている。2020年度からは、地元企業等と本学との間で会議体を構築して、企業側からの本学の教育や進路支援体制について意見を聴取し、教育や進路支援の改善に役立てている。

3学科ともキャリアデザイン講座等の就職支援科目では、就職ガイダンス、体験発表会、インターンシップ説明、マナー講座・求人票の見方等の内容を組み入れ、支援の強化に努めている。また、教員の学生支援においては、オフィスアワー等の時間を活用し、就職や進路について相談に応じ、希望職種の把握や希望条件等、学生一人ひとりの適性や希望を十分に把握し、学生が望む企業等の紹介やエントリーシート作成の助言等をきめ細やかに行っている。新型コロナウイルス感染症拡大に対応して、ICTを活用した進路支援を引き続き強化している。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

学生委員会、学生課、保健室が連携し、検討・実施に取り組んでいる。全学生を対象に毎年「学生生活に関する調査」を実施し、「今、抱えている不安や悩み、気になっていることを、教えて下さい」や「身体は健康ですか」「精神的に安定していますか」「学生相談室で、スクールカウンセラーが悩みの相談にのってくれることを知っていますか」などの質問を設定し、全体の把握と施設の周知を行っている。

毎月開催されている学生委員会においては、「様々な問題を抱えている学生への対応」を情報共有し、保健室からの助言や、学生が学生相談室に行くことを勧めるなどの働きかけを行っている。

保健室は、学生の来室や相談の状況、内容の把握に努め、学生委員会で報告し対応しており、各学科、学生委員、学生課と連携しながら、必要がある場合は、スクールカウンセラーも含めたカンファレンスを開催し、早期の対応を行っている。

また、保健室では、健康診断を実施し、学生の健康状態の把握や、二次検診の受診の準備や、連絡を行っている。学生相談室は、ほぼ毎週開設し、学生に利用している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法 : <https://www.gakusen.ac.jp/t/ippan/info2-1.html>

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F223310107058
学校名 (〇〇大学 等)	愛知学泉短期大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人 安城学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者 (家計急変による者を除く)		70人	65人	70人
内訳	第Ⅰ区分	41人	43人	
	第Ⅱ区分	14人	14人	
	第Ⅲ区分	15人	8人	
	第Ⅳ区分	人	人	
家計急変による支援対象者 (年間)				0人
合計 (年間)				70人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号、第4号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	人	人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	人	0人	1人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	人	人	人
「警告」の区分に連続して該当	人	人	人
計	人	0人	1人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	人
訓告	人
年間計	人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下)	人	人	人
GPA等が下位4分の1	人	0人	1人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	人	人	人
計	人	1人	1人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。